

概要

人口動態統計は、出生、死亡、死産、婚姻、離婚の5つの事象を、市町村に届け出された各届書から調査、把握したもので、人口集団の動向を知る上で重要な役割を果たしています。平成17年中における本県の人口動態の概況は、次のとおりです。

(表1) 人口動態の概況

区 分	実 数			率			全国(17年)	
	平成17年	平成16年	差 引	平成17年	平成16年	差 引	実 数	率
出 生	11,528	12,057	529	7.9	8.2	0.3	1,062,530	8.4
死 亡	15,469	14,664	805	10.6	10.0	0.6	1,083,796	8.6
乳児死亡	32	34	2	2.8	2.8	-	2,958	2.8
新生児死亡	19	14	5	1.6	1.2	0.4	1,510	1.4
自 然 増 加	3,941	2,607	1,334	2.7	1.8	0.9	21,266	0.2
死 産	393	394	1	33.0	31.6	1.4	31,818	29.1
自然死産	166	127	39	13.9	10.2	3.7	13,502	12.3
人工死産	227	267	40	19.0	21.4	2.4	18,316	16.7
周産期死亡	72	52	20	6.2	4.3	1.9	5,149	4.8
妊娠満22週以後の死産	55	40	15	4.7	3.3	1.4	4,058	3.8
早期新生児死亡	17	12	5	1.5	1.0	0.5	1,091	1.0
婚 姻	7,246	7,339	93	5.0	5.0	-	714,265	5.7
離 婚	3,037	3,215	178	2.08	2.19	0.11	261,917	2.08

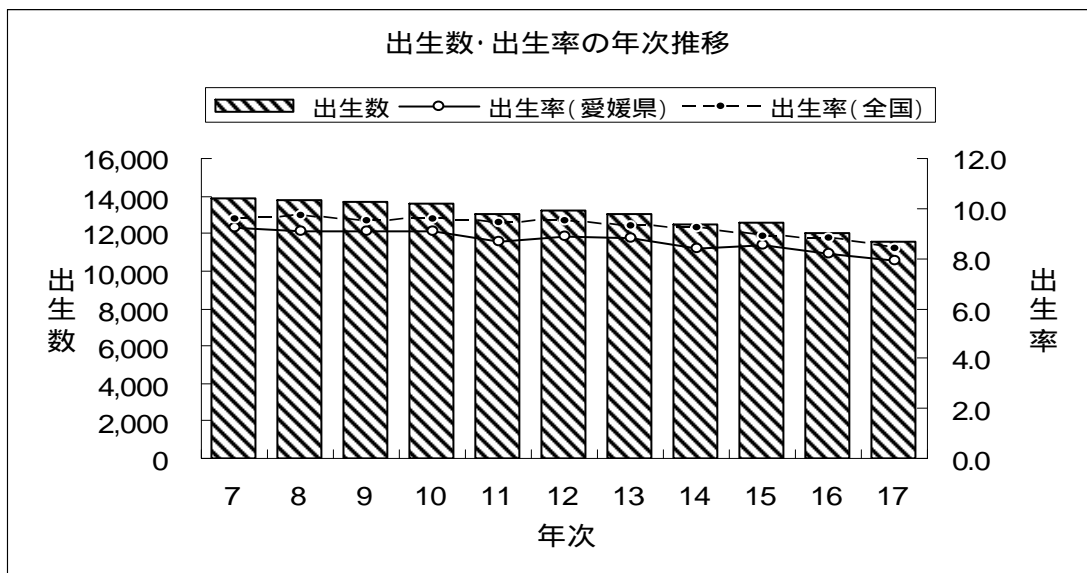
	愛媛県		全国	
	平成17年	平成16年	平成17年	平成16年
合計特殊出生率	1.35	1.33	1.26	1.29

注1) 率: 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚は人口千対, 乳児・新生児・早期新生児死亡は出生千対, 死産は出産(出生+死産)千対, 周産期死亡・妊娠満22週以後の死産は出産(出生+妊娠満22週以後の死産)千対である。

注2) 周産期死亡数は 妊娠満22週以後の死産に生後1週未満の早期新生児死亡を加えたものである。

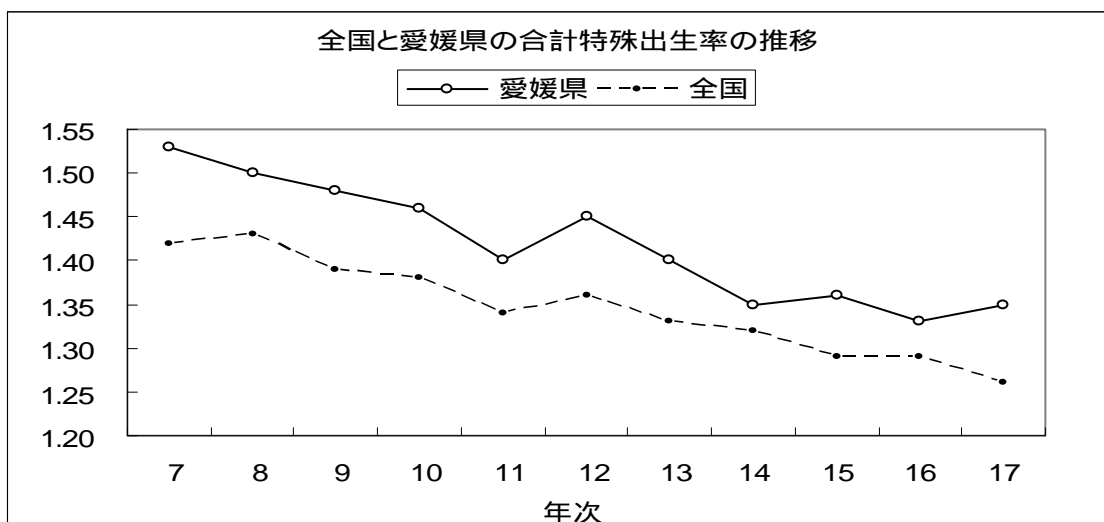
1 出生

出生数は11,528人で前年に比べて529人減少し、出生率(人口千対)は7.9で前年から0.3下回りました。



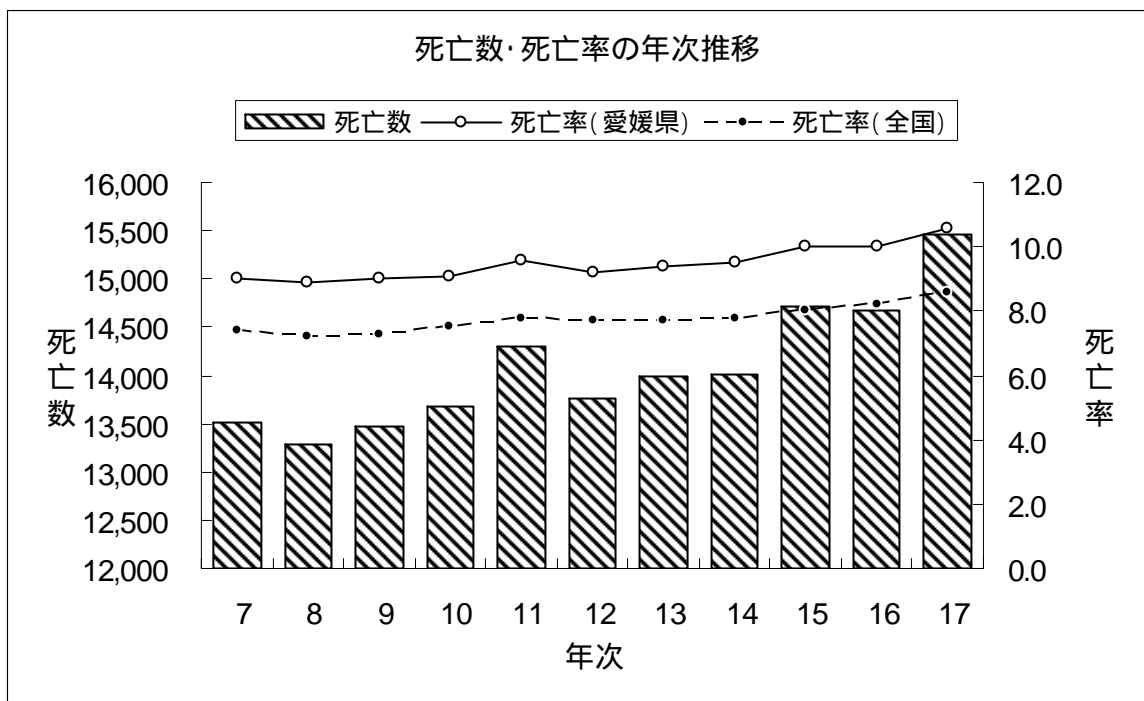
これは都道府県別の上位34番目で、全国平均に比べ0.5ポイント低く、四国内では香川県について2番目に高い率でした。

今後も平成17年と同じ率で子供が産まれると仮定すると、一人の女性が生涯に産む子供の数の平均(平成17年の合計特殊出生率)は1.35人で、前年を0.02ポイント上回りました。



2 死亡

平成17年中の死亡数は15,469人で、前年に比べて805人増加し、死亡率(人口千対)は10.6で前年より0.6上回りました。



これは都道府県別の上位9番目で、全国平均に比べて2.0ポイント高く、四国内では高知県、徳島県についで3番目に高い率でした。

10位までの死因順位を年次別にみると、表2のとおりです。県内の上位10位までの年次別死因順位は表3のとおりで、上位3死因と死亡率(人口10万対)は、

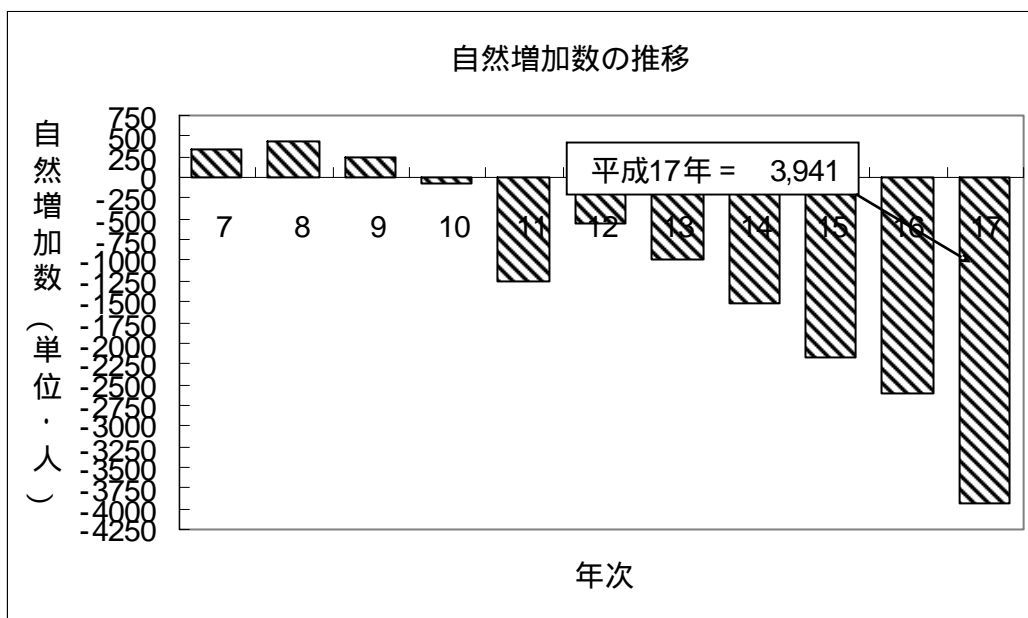
- | | | |
|---|-------|----------------|
| 1 | 悪性新生物 | 289.7(全国258.3) |
| 2 | 心疾患 | 198.5(全国137.2) |
| 3 | 脳血管疾患 | 127.6(全国105.3) |

でした。

なお、「悪性新生物」による死亡を部位別、年次別にみると表4のとおりです。

3 自然増加

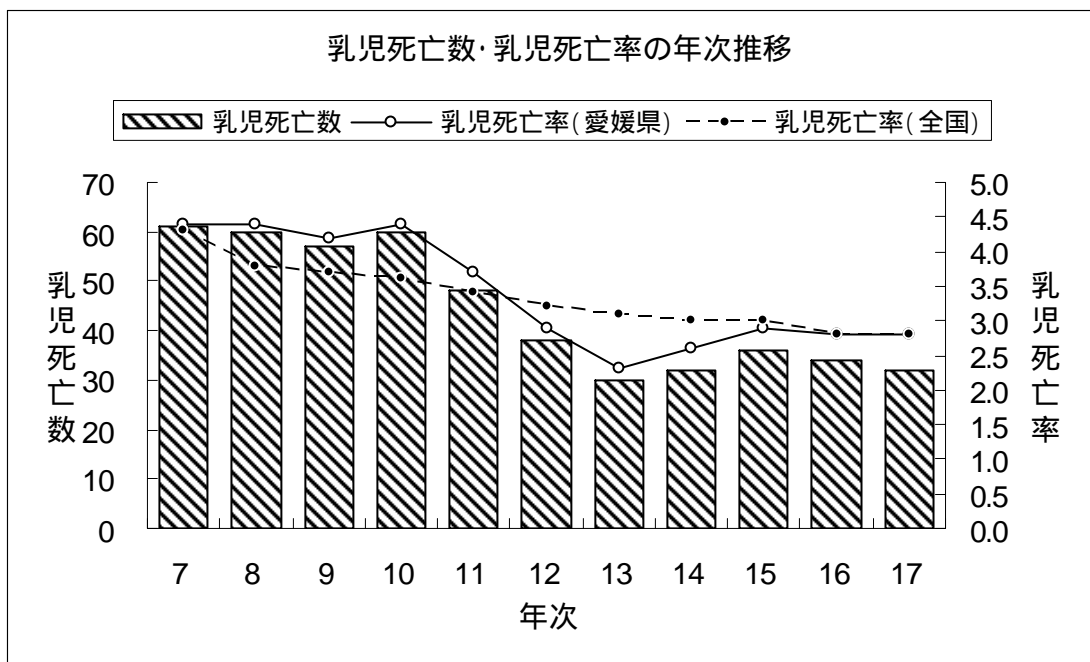
平成17年中の自然増加数はマイナス3,941となり、前年に比べ1,334人減となりました。自然増加率はマイナス2.7で、前年を0.9下回りました。



これは全国平均に比べて、2.5ポイント低く、四国内では高知県、徳島県について3番目に低い率でした。

4 乳児死亡

平成17年中の乳児死亡は32人で、前年に比べて2人減少し、乳児死亡率(出生千対)は2.8で、前年と同率でした。

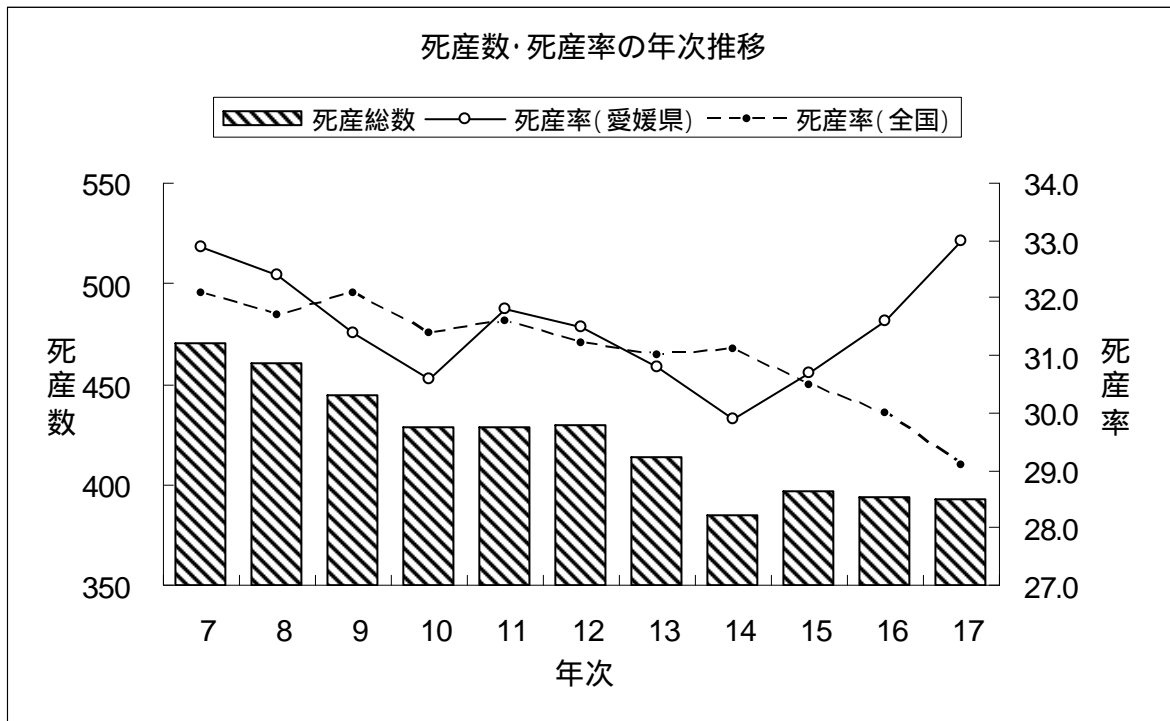


これは全国平均と同率で、四国内では高知県に次ぐ低い率で、香川県と同率でした。

5 死産

死産とは妊娠満12週(第4月)以後の死児の出産をいい、自然死産と人工死産に区分されます。

平成17年中の死産は393胎で、前年から1胎の減少となり、死産率(出産千対)は前年を1.4上回る33.0でした。

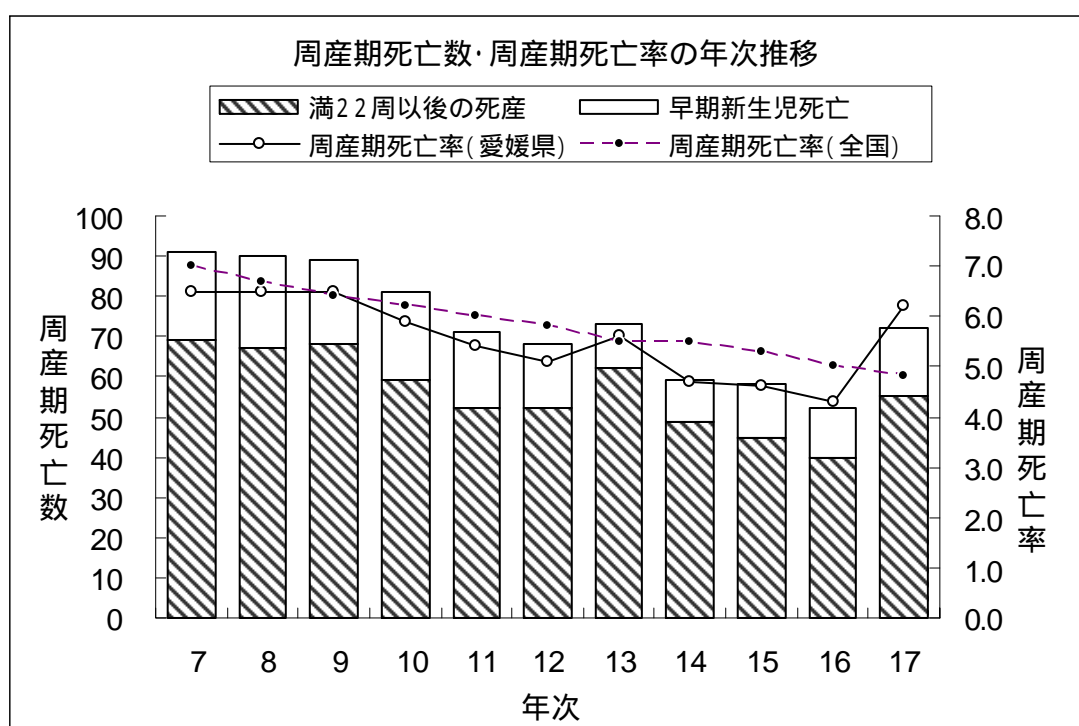


これは全国平均に比べ3.9ポイント高く、四国内では香川県、徳島県に次いで3番目に低い率でした。

6 周産期死亡

妊娠満22週以後の死産と生後1週未満の早期新生児死亡を合わせて周産期死亡と
いいます。

平成17年中の周産期死亡数は、妊娠満22週以後の死産55胎、早期新生児死亡17
人となっています。前年に比べて、前者は15胎、後者は5人増加しました。総数では7
2件で、前年に比べ20件増加しました。



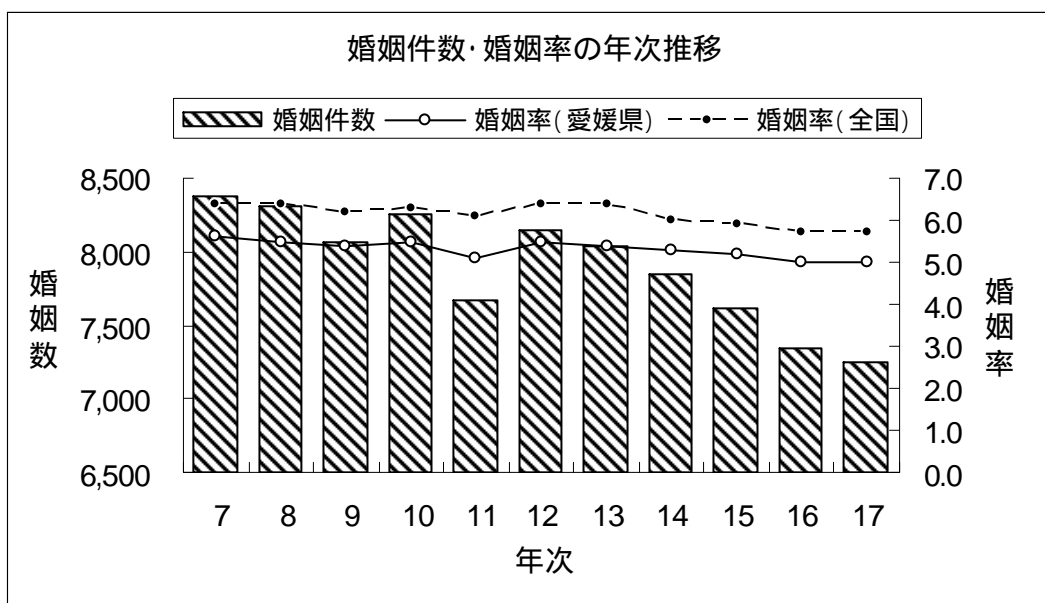
周産期死亡率(出生千対)は、妊娠満22週以後の死産4.7、早期新生児死亡1.5で、
全体では6.2となっており、前年に比べて1.9ポイント増加しました。

全体の周産期死亡率6.2は、全国平均に比べ1.4ポイント高く、四国内では最も高い
率でした。

なお、平成7年からは、「国際疾病障害死因分類」(ICD)の改訂に伴い、周産期死亡
における後期死産の定義も「妊娠満28週以降」から「同22週以降」の死産へと変更さ
れました。本書では、平成6年以前にも遡って満22週以降で計算し直した数値を用い
ています。

7 婚姻

平成17年中の婚姻件数は7,246件で、前年に比べて93件減少し、婚姻率(人口千対)は5.0で前年と同率でした。

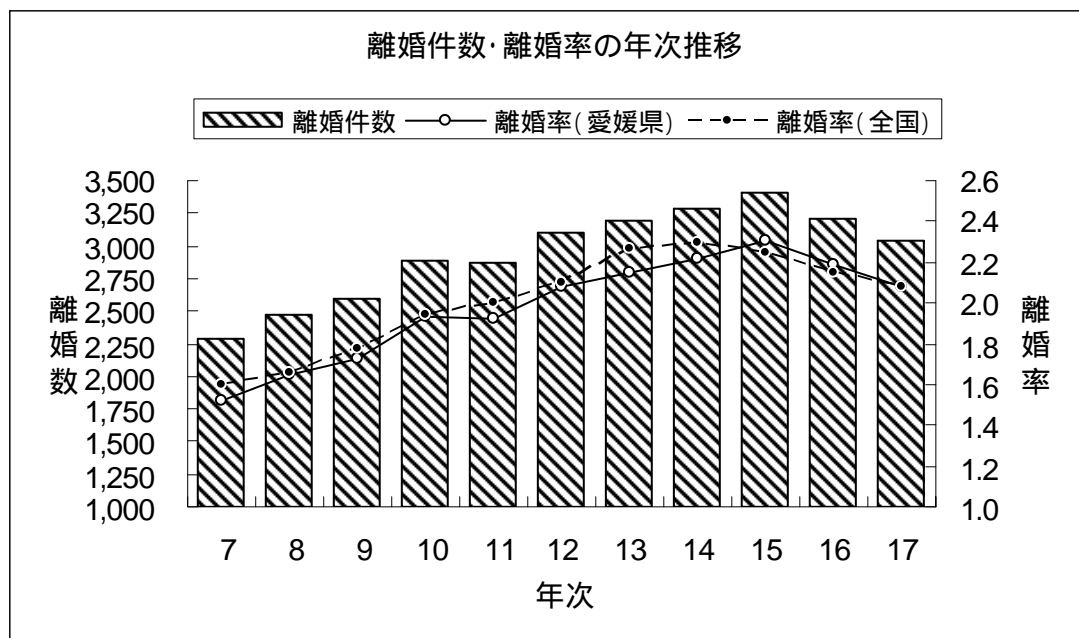


これは全国平均に比べ0.7ポイント低く、四国内では香川県に次いで2番目に高い率でした。

なお、初婚者の平均婚姻年齢は、夫29.0歳(前年28.7歳)、妻27.4歳(前年27.2歳)となっています。全国では、初婚者の平均婚姻年齢は夫29.8歳、妻28.0歳でした。

8 離婚

平成17年中の離婚件数は3,037件で、前年に比べて178件減少し、離婚率(人口千対)は2.08で前年を0.11下回りました。



これは全国平均と同率で、四国内では高知県に次いで2番目に高い率でした。